

	シーズ名	健診・レセプトデータを利用した健診受診と医療費に関する研究
	氏名・所属 等	石原 礼子・保健医療経営学部・講師
<p><概要> 平成20年度から導入された糖尿病等の生活習慣病に着目した健康診査及び保健指導（以下、特定健診・保健指導）は、生活習慣病にかかる医療費の伸びを抑制させる目的でスタートしました。そして、その評価には診療報酬明細書（以下、レセプト）情報を活用し、実際に生活習慣病にかかる医療費が減少していることを確認することが重要です。 そこで、特定健診データとレセプトデータを突合し、次のことを明らかにする目的で研究を行っています。</p> <p>① リスクが同じである場合では、健診受診者が未受診者に比較して生活習慣病にかかる医療費の伸びが低いことを証明し、健診の受診勧奨の妥当性を示す。 ② リスクが同じである場合では、保健指導を受けた人が受けなかった人に比較し、保健指導対象となった項目（BMI、血圧、HbA1c 等）に関して維持もしくは改善することを証明し、保健指導の生活習慣病発症予防の効果を示す。 ③ リスクが同じである場合では、健診で要医療と診断されその後受療した人は、受療せず放置した人に比較して生活習慣病にかかる医療費が低くなることを証明し、要医療者に受療指導することの妥当性を示す。 ④ 高血圧や糖尿病ですでに治療中の者で、血圧やHbA1c のコントロール不良な人は、コントロール良好な人に比較して喫煙や運動習慣などの生活習慣が悪化していることを証明し、生活習慣病患者に対する保健指導の重要性を示す。</p> <p><アピールポイント> 電子レセプトを利用することにより、いつどのような診療行為が施され、どのような薬がどれくらい処方されたか等の、医療の内容についてより詳細な分析をすることが可能となります。 また、健診の受診や保健指導の効果による生活習慣病発症の予防やそれに伴う医療費の削減を証明できることは、今後の実施計画策定ならびに保健予防活動に有用な指針を与えることが期待されます。さらに、健診の受診勧奨や必要な受療を行わないままの放置者に対する保健指導対策の基礎資料としての活用が期待されます。</p> <p><利用・用途・応用分野> ・特定健診・保健指導の評価 ・疾病管理対策の確立 ・診療報酬改定による医療費への影響評価</p> <p><関連する知的財産権> なし</p> <p><関連するURL> https://kaken.nii.ac.jp/d/p/21790512.ja.html https://kaken.nii.ac.jp/d/p/15K21568.ja.html</p> <p>科学研究費助成事業（研究代表者） ・特定健診の受診状況が生活習慣病にかかる医療費に与える影響の縦断的研究（2015.04～19.03） ・レセプトデータを用いた特定健診・保健指導の評価に関する研究（2009.04～15.03）</p> <p><他分野に求めるニーズ> なし</p>		
キーワード	電子レセプト、特定健診、生活習慣病、医療費	